

昭島礼拝 2020/9/20

聖書：ヨシュア 24:14-18

主題：信仰の決断

賛美：

みなさん、おはようございます。ヨシュア記の学びを続けてまいりましたが、今日で最後になります。今日は23-24章の内容を観たいと思います。この2つの章にはヨシュアの遺言が記されています。7月からヨシュア記を開いてきましたが、最初にヨシュア記に開いた時に、ヨシュア記には最初と最後に結論が記されているように思いますとお話したと思います。それは「主が共にいて下さるから、あなたは主に従い通しなさい。」という事でした。ヨシュア記の最初でカナンへの地に入る前のイスラエル人たちに神様は語られました。「私がついているから大丈夫。恐れず信じて従いなさい。」そしてカナンでの大きな戦いがありました。神様が約束通り守って下さいました。それらを経験した後、改めて神様はイスラエル人たちに語りかけられています。「私があなたを守りました。これからは恐れずに私を信じて従いなさい。」それが23-24章の内容です。

ヨシュアも晩年を迎え、イスラエル人たちに最後の説教を話そうとしていました。23:1-2 を読みます。『主が、周囲のすべての敵からイスラエルを守って安息を与えられてから、多くの日がたち、ヨシュアは年を重ねて老人になっていた。2 ヨシュアは全イスラエル、その長老たち、かしらたち、さばき人たち、つかさたちを呼び寄せて彼らに言った。「私は年を重ねて老人になった。』こうしてヨシュアはイスラエル人たちにこれまでを振り返っての話をします。23章ではおもに、カナンへの地に入ってからということが語られています。ヨシュア自身が体験したこととも言えますし、話を聞いているイスラエル人たちが全員が

体験したことでもあります。それはカナンへの地に入ってから歴史は、神様が守り導いて下さった歴史であるという事です。神様はカナンへの地に入る前に、イスラエル人たちを守り、イスラエル人たちにこの地をあたえるために戦いと約束して下さりましたが、まさにその通りだったということをお話しています。自分たちが自分の力で戦って、このカナンへの地を手に入れたのではなく、神様が戦って下さったので、イスラエル人はこの地に住むことができるようになったのです。ヨシュア 24:13 には神様の言葉が記されていますが、このことを短くよくまとめている言葉だと思います。「わたしは、あなたが労したのではない地と、あなたがたが建てたのではない町々をあなたがたに与えた。あなたがたはそこに住み、自分で植えたのではない、ぶどう畑とオリーブ畑から食べている。」イスラエル人たちは自分の力で得た土地ではなく、神様が与えて下さった土地に住むようになったのです。まさに神様からの恵みです。私たちもこれまでヨシュア記を続けて読んできて、神様が戦って、イスラエル人たちにカナンを与えて下さったということがよく分かるのではないかと思います。

このようにこれまで神様がイスラエル人たちを守り導いて下さったのだから、これからはずっと神様を愛し、従っていきなさいとヨシュアは語ります。カナンへの地では、他の民族が他の神々を拝んでいました。彼らの仲間入りをして、真の神様を捨てて、他の神々に仕えてはならない。他の神々を捨てて、真の神様に仕えなさいと教えています。

24章でヨシュアは神様の言葉を引用しています。神様はヨシュアや他のイスラエル人たちが体験してきたことだけでなく、みんなお共通の先祖であるアブラハムの話から始めます。神様はアブラハムに約束しました。「あなたとあなたの子孫はこの地を与える。あなたの子孫はこの地で星の数のようになる。」そして神様はその後、ずっとその約束を忘れず、今この時にアブラハムの子孫であるイスラエル人たちにこの地を与えて下さったのです。たとえどんな困難や

敵がいたとしても、神様はその敵や困難を追い払い、イスラエル人たちにこの地を受け継がせてくださいました。

この神様の言葉を紹介した後、ヨシュアはイスラエル人たちに決断を促します。他の神々に仕えるか、真の神様に仕えるか、どちらを選ぶかを迫ります。そして自分の信仰告白をします。24:14-15 を読みます。「今、あなたがたは主を恐れ、誠実と真実をもって主に仕え、あなたがたの先祖たちが、あの大河の向こうやエジプトで仕えた神々を取り除き、主に仕えなさい。 15 主に仕えることが不満なら、あの大河の向こうにいた、あなたがたの先祖が仕えた神々でも、今あなたがたが住んでいる地のアモリ人の神々でも、あなたがたが仕えようと思うものを、今日選ぶがよい。ただし、私と私の家は主に仕える。」これまで守り導いて下さった主に仕えるのか、それとも他の神々に仕えるのか、両方に仕えるということはできません。どちらかを選ぶ必要があります。今日はこっちの神、明日はこっちの神ということもできません。どちらかをずっとという決断をヨシュアは迫ります。その上で、リーダーでもあるヨシュアはまず自分の告白をします。24:15 の最後の一言ですね。「私と私の家は主に仕える。」他の神々には仕えない。神様に仕えるということをヨシュアは告白します。

ヨシュアがこの話をするためにイスラエル人たちを集めた場所は、シェケムです。24:1 に書いてあります。シェケムという町はどういう町だったかと言いますと、しばらく前に紹介しました。2 つの山の間にある町です。ゲリジム山とエバル山です。そしてゲリジム山には祝福を置き、エバル山にはのろいをおくという印象的な儀式をしました。どうしてこういう事をするのかというと、それを見て真の神様を思い出し、神様に仕えることを思い出すためにということでした。これはモーセの遺言によるものです。申命記 11:29 を開きます。「あなたが入って行って所有しようとしている地に、あなたの神、主があなたを導き入れたら、あなたはゲリジム山の上には祝福を、エバル山の上にはのろいを置かなければならない。」このようなモーセの言葉がありました。そのゲリジム

山とエバル山を良く見渡せる町がシェケムです。どうしてモーセはこのようにことを指せたのかと言いますと、イスラエル人たちにしっかりと神様と契約をさせるためです。申命記 28-30 章に非常に細かく契約の内容が書かれています。神様に従いとおすなら祝福が、神様に聞き従わないならのろいということが記されています。その上でイスラエル人たちの決断を迫るのです。その締め括りである申命記 30:19-20 でモーセはこのように述べます。「私は今日、あなたがたに対して天と地を証人に立てる。私は、いのちと死、祝福とのろいをあなたの前に置く。あなたはいのちを選びなさい。あなたもあなたの子孫も生き、 20 あなたの神、主を愛し、御声に聞き従い、主にすがるためである。まことにこの方こそあなたのいのちであり、あなたの日々は長く続く。あなたは、主があなたの父祖、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓われたその土地の上に住むことになる。」いのちと死、祝福とのろい、どちらを選ぶか、あなたがたはぜひともいのちを選びなさい。神様はこれまでもずっとあなたがたを守って下さいました。だからずっと神様の約束を信じ、従い通しなさい。神様はあなたがたのいのちそのものです。とモーセは語っています。ヨシュア自身もきっと一人の人間として、ゲリジム山とエバル山を見上げながら、「私と私の家は主に仕える。」と告白をしました。

ヨシュアはその後、イスラエル人全体の決断も聞きます。イスラエル人たちは「私たちが主を捨てて、ほかの神々に仕えるなど、絶対にあり得ないことです。」と答えるのですが、その後ヨシュアは 24:19 で「あなたがたは主に仕えることはできない」と言っています。せっかくイスラエル人たちが神様に飲み仕えるという決断の言葉を話しているのに、わざわざそれを否定するを言っています。これは注解書などでは、もしかしたらヨシュアはすでにイスラエル人たちの中に他の神々を崇拝する者、偶像を隠し持っている者がいることを見抜いていたのではないかと考えています。もしかしたらそうかもしれません。

ですから 24:23 で再度ヨシュアは「あなたがたの中にある異国の神々を取り除き、イスラエルの神、主に心を傾けなさい。」と語っています。こうしてイスラエル人たちはもう一度しっかりと信仰告白をし、新しいカナンの地での生活を始めるのでした。

私たちも時々、このような今までの振り返りと信仰の再確認をすることが必要ではないかと思えます。私たちは今のことに忙しく過ごしているので、なかなか過去を振り返るといふことをしないのかもしれない。ですが今、礼拝の時などは振り返りができるチャンスですね。神様の前に静まって自分のこれまでの歩みを振り返り、それが確かに神様の見守りと導きのうちにあったのだと認めることが大事です。その上で、今自分が大事にしている物は何だろう。神様が一番大事と言えらるうか。モーセのように「神様こそわたしのいのちです。」と言えらるうか。ヨシュアのように「私は神様にのみ仕えます。」と言えらるうか考えることが大事です。そして今までも罪と不信仰を取り除いて、十字架によってきよめて頂いて、新しい信仰告白を共にしたいと思えます。これからは主に仕えていきますと告白をしたいと思えます。

#### ヨシュアの遺言と勧め

23 章 過去の振り返り ヨシュアの体験

24 章 神様の言葉 イスラエル民族の振り返り

他の神々を捨て去って、主に仕えよ

#### ヨシュアの決断

神様の恵みを受けた

どの神に仕えるか選ぶ

シェケム

エバル山とゲリジム山

祝福とのろい

自分は主に仕える。あなたがたはどうするか。

イスラエルの決断と契約

再契約

証しとなる石